



① 被爆桜の生命力に感動！昨年3月に市内には9本の苗木をいただきました
 ② 三歳の男の子が大好きだった三輪車の残骸を見て言葉が出ませんでした
 ③ 「原爆死没者慰霊碑」に祈りをささげる中学生たち
 ④ 全11の中学校で1000羽以上折ってくれた千羽鶴を奉納しました
 ⑤ 平和記念式典が始まる前に「平和への願い」を込めて折鶴を折ります

広島平和記念式典中学生派遣事業

平和への思いを感じて

67回目の「原爆の日」を迎えた8月6日、広島市の平和記念公園に、真剣な面持ちで広島市長の平和宣言を聞く中学生の姿がありました。

彼らは市内11中学校の生徒を代表した11人。渡部市長、飯田教育長、加藤治吉市議会議長らとともに、中学生派遣団として広島平和記念式典に参列しました。

磐田市では、平成21年4月1日に「核兵器廃絶平和都市宣言」を制定し、核兵器の恐ろしさ、平和への尊さを訴えています。そして、多感な年齢である中学生が自分自身で感じた「平和への思い」を自分の言葉で伝えてもらおうと、平成22年度から「広島平和記念式典中学生派遣事業」を行っています。

中学生たちは、何を見て、何を聞き、そして、何を感じたのでしょうか。「平和への思い」を新たにした中学生の言葉を通して紹介します。

安田女子高校を訪問

安田女子高校には、爆心地から約2.1kmしか離れていないにもかかわらず奇跡的に生き残った「被爆桜」があり、今なお元気で、毎年美しい花を咲かせています。

安田女子高校では生徒会が中心となって、被爆桜から苗木を作り、全国の学校や団体に贈る活動を続けています。

磐田市でも昨年3月に9本の苗木を寄贈していただき、市内の8中学校とかぶと塚公園に植樹しています。

生徒会の方から、原子爆弾が投下された時の高校周辺の様子や「桜とともに平和に対する夢と希望を全国に発信したい」など「平和」と「被爆桜」への思いを話していただき、中学生も真剣に聞き入っていました。

被爆桜の幹に手で触れた、川合晃生さん（南部中）は「ずっと生き続けていて、再び花を咲かせ続けたこの桜は、原爆のことをもつと多くの人

に知ってもらおうと話しているように見えました」と話してくれました。

原爆ドームを間近にみて

平和記念公園周辺の見学をする中学生一行は、まず原爆ドームを見て回りました。

高橋和香奈さん（豊岡中）は「原爆ドームは今まで教科書でしか見たことがなかったけど、自分の目で見て、教科書では伝わらない原爆の悲惨さが伝わってきました」。

加藤すみれさん（豊田中）は「67年前、自分が立っているこの建物の上に原子爆弾が落ちたかと思うと、とても怖くなりました。磐田に戻ったら原爆の恐ろしさ、平和の大切さを伝えたいです」。

鈴木聖人さん（竜洋中）は「原爆ドームを見て、原爆のエネルギーの強さを感じました。戦争を知らない僕たち中学生の世代にも戦争の悲惨さを伝えていきたいです」と話してくれました。





⑤

戦争の悲惨さ、平和の尊さを 心に刻んだ夏の二日間

動員学徒慰霊塔を見て

次に中学生たちは、戦時中の労働力不足を補うために動員され戦禍に倒れた学徒と、原子爆弾によって犠牲になった学徒のために建てられた動員学徒慰霊塔を見学しました。

石碑には、全国の戦没学徒出身校352校も刻まれており、「中泉農」、「見付中」「磐田女」と磐田市内の学校を見つけた中学生たちは「自分たちと同じ年代の子たちも戦争で亡くなったんだ」と戦争の悲惨さを感じていました。

平和記念資料館を見学

原子爆弾が投下される前と後の広島市の模型や8時15分で止まったままの時計、高校生が被爆時に持っていた財布や校章、原子爆弾の熱線で全身やけどを負った方の写真など目を覆いたくなるような悲惨なものがたくさん展示してありました。

伊藤二葉さん(城山中)は

「とても怖くて、しっかりと見ることができない展示もありました。見ることができな

増田竜樹さん(豊田南中)

は「展示品は戦争の悲しさを訴えかけているようでした。頭で考えるより前に見たものが心に伝わり、それを心で考えることができました」。

百武大葵さん(向陽中)は

「広島の前市長さんが各国で核

実験が行われるたびに毎回抗議文を送っていることを知り、すぐく平和に努めているんだなという思いがしました」と話してくれました。

平和記念式典に参列

広島への訪問2日目。平和記念公園で平和記念式典が開かれ、被爆者や遺族代表、そして世界各国70カ国以上の代表が参加し、原爆で亡くなった方々を悼み、平和への思いを新たにしました。

原爆が投下された午前8時

15分に「平和の鐘」が鳴らされ参列者全員が黙とうをささげました。厳しい暑さの中、広島市長の平和宣言やこども代表の二人の小学生在が「平和への誓い」を読み上げました。

石森圭さん(神明中)は

「式典に参加し、いろいろな方のお話を聞きながら、原爆が落ちたときの広島を想像してみたら心がすごく痛みました。

命が尊いものであることをみんなにも伝えたいです」。

竹中実彩さん(磐田第一中)

は「式典での合唱団の歌声は、広島の前が平和に包まれたような気がして感動しました。平和を願う人がとても多く参列されていて、とても驚きました」と話してくれました。

中学生一人ひとりが

感じた平和への思い

八木菜々子さん(福田中)

この夏の体験は、彼らの心に響き、貴重な財産になったことでしょう。

は「以前は『戦争』や『平和』をぼんやりとしか意識していませんでしたが、平和記念式典に参列して、心にダイレクトに感じました」。

戸倉未稀さん(磐田東中)

は「広島に行つて、今までより強く『平和』を願うようになりました。家族や学校のみんなに自分の言葉で伝えたいです」と話してくれました。

磐田市がこの派遣事業を行

う狙いは、普段の生活の中で、当たり前になっている「平和」の大切さをあらためて感じてもらうことにあります。



広島平和記念式典参加中学生

前列左から

豊田南中学校
竜洋中学校
豊岡中学校
磐田東中学校
城山中学校
豊田中学校

増田竜樹さん
鈴木聖人さん
高橋和香さん
戸倉未稀さん
伊藤二葉さん
加藤すみれさん

後列左から

向陽中学校
南部中学校
神明中学校
福田中学校
磐田第一中学校

百武大葵さん
川合晃生さん
石森圭さん
八木菜々子さん
竹中実彩さん

※「中泉農」、「見付中」、「磐田女」は、それぞれ現在の「磐田農高」、「磐田南高」、「磐田北高」にあたります。